

新宿から70分の小旅行

藤野園芸ランドコース 神奈川県

待ちに待った「再開」の報せを受け、30年ぶりに藤野の地を訪れました。

「藤野園芸ランド」コース
神奈川県 No.83 JOA 公認 No.401
6km 10 ポスト

再開からすぐ訪問

1990年に日本書籍より刊行された『たのしい野外教室③オリエンテーリング』の表紙にも採用されたことのある「藤野園芸ランド」コース。オープンには1976年4月で、藤野駅から15分歩いた園芸ランドの管理事務所を基点に、山間部に深く分け入る10kmの本格的なコースとして親しまれていました。私が家族で訪れたのは開設から5年後の1981年3月の雨の日。ずぶ濡れになりながら歩いたのを覚えています。

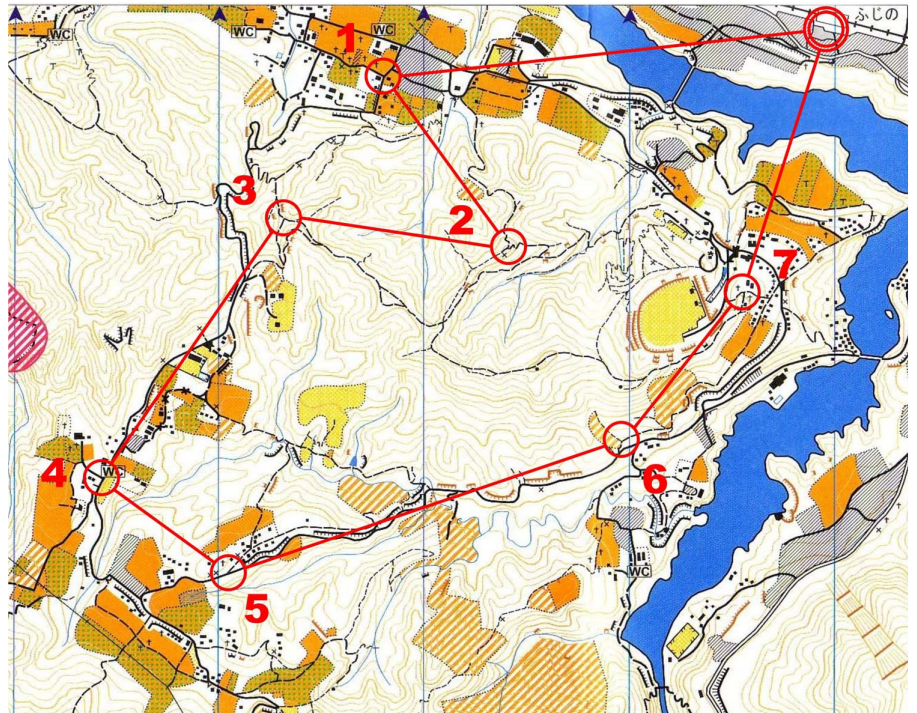
その後、コース南側の尾根筋を歩くルートがカットされ、6kmに短縮されて存続していましたが、2007年9月1日付けで「廃止」の情報が飛び込んできます。そのすぐ後、神奈川県協会の方から再開に向けて準備中との私信を頂き、2009年にはJOAのサイトでも情報が告知され、その日を心待ちにしていました。今回のレポートは再開から1週間後のGWに訪れた際のものであります。

藤野駅前からスタート

JR横須賀線、横浜線、中央本線と乗り継ぎ、お昼に藤野駅に到着します。鄙びた駅前を想像していたのですが、予想に反して大変な賑わいです。駅前ではちょっとしたバザーが開催されているうえ、これからやまなみ温泉へ向かう一団がバス待ちをしています。

スタート地点が駅前に変更になったものの案内板はなく、地図とマスターマップは隣接している「藤野観光案内所ふじのね」で扱っています。マスターマップは他のパンフレット類と一緒に机の上に置かれていて、「歩くならポイントさがして楽しく歩こう」というPOPが添えられています。パーマネントコースの楽しみを簡潔に伝える素敵なフレーズに嬉しくなります。

1枚150円で地図を購入すると、開設当初のものではなく、平成10年調査のものに改訂されていました。縮尺も1:15,000から1:10,000となり、コース



藤野園芸ランドコース。新宿から中央線で70分のJR藤野駅からスタートできる

は短縮されたものをそのまま踏襲しています。

旧コースでいうと、②①③の順に周り、移設された④を経由して、⑥⑨⑩とつなぐ、全7ポストです。ポスト位置こそ1箇所が異なるだけですが、回り順が組み替えられることで、これまで通らなかった区間を歩く楽しみが生まれます。アジアの食材を挟み込んだサンドをバザーで買い、昼食代わりにお腹に詰めて12時半丁度にスタートです。

相模湖を渡る

歩き始めてまもなく、眼下には通常の河川の数倍も広い水面が見えてきます。山梨県側では「桂川」と呼ばれ、県境を越えて神奈川県に入ると「相模川」になるその川は、注ぎ込む相模湖の手前から、俄かに川幅を広げ始めます。このコースを印象付ける独特の景色です。

弁天橋で対岸に渡ると道路を西に向かいます。途中に大きな看板を出した小料理屋「梅ヶ枝」でおかしなものを発見。看板をよくよく見てみると、「お休み/火曜日とあの日」と記されています。「あの日」??…。店舗は閉まっていますが、真相は謎のままですが、ご存知の

方がいらっしゃいましたら教えてください。

ポストは名倉地区の三叉路に置かれています。先述の書籍に掲載されている写真と比較すると、フォルクス・ワーゲンが駐車している場所に家が建ち、ポストの横に電柱が新たに設置されたことが分かります。



弁天橋から望む相模川

ここからはかつて下ってきた道を逆に登ります。以前は第1ポストだった現在の第2ポストは、園芸ランド事務所から上ってくると、ポスト手前に右手に入る分岐がありました。書籍の記事には、子供たちがこの分岐を見落とすくだりがあり、ポストに到達する苦労と喜びが初心者にはずっと大きいものだということが気づかされます。更に、ポストを発見しても正解か否かを

近くの祠で検証していますが、初心者を連れて行くうえで忘れてはいけないプロセスです。記事から20年以上経過していますが、その祠は変わらず鎮座しています。

第3ポストまでの区間はルート変更によって新たに経路することになりました。現在のコースでは最もOLらしさを味わえる快適な尾根道が続きます。まずは第2ポストから小径をたどり、書籍の記事では子供たちが誤って来てしまったというB地点に到着。ここから方向を転じて北西方面に進みます。ピークを迂回するように道が続いているので、森林浴をのんびり満喫しましょう。第3ポストは南へ下る道との分岐です。書籍掲載の写真右側に写っている曲がった樹木はそのまの姿で来訪者を迎えています。ポストの西側の山は一本松山と名づけられています。



幹の曲がった樹木と第3ポスト

山道を下り道路に出ると、熟年女性の一団が何やら沿道の林を鑑賞しているところに出くわします。視線の先を覗くと、そこには今がちょうど見ごろのヤマフジが淡い紫色の花をいっぱい咲かせていました。この地が「藤野」と言われることが納得の景観です。

オーストリアの神秘思想家シュタイナーの提唱する教育思想を実践する「シュタイナー学園」の前を過ぎると、左手に見える山肌は何やら大きな目玉が描かれている光景が見えてきます。はじめは宗教の関係のものかと疑ったそれは、旧藤野町が20数年前に町おこしのために設置した現代アート作品の1つで、パーマネントコースはこうしたオブジェを配置した「芸術の道」と重なるようにコースが組まれています。全部で30箇所あるというその作品を捜し歩くのも一興です。ちなみにこの目玉は「山の目」と名づけられています。同じ作家の作品が藤野駅近くからも眺められる「緑のラブレター」という作品。手紙を両手に包むように抱くオブジェが山に浮かぶように設置されています。



山の目にドッキリ

第4ポストはかつての三叉路から移設され、正念寺と葛原神社の前の道路端に置かれています。この一帯は「葛原」地区と呼ばれているのですが、その読みは「とずらはら」。「かずら」が訛ったものなのなののでしょうか…。



道路をぐるりとめぐり、第5ポストは「森の守護神」という作品の手前です。旧第6ポストはやや東寄りの分岐に設置されていました。そして、かつてはここから後半のハイライトである尾根の縦走へと歩を進めたのですが、現在は旧第9ポストへと道路をショートカットします。書籍の子供たちが歩いたのと同じルートです。

途中、「射影子午線」「限定と無限定」「COSMOS」といった作品をながめつつ進み、道路から僅かに山道を入ったところで第6ポストを発見。最終ポストへと向かいます。

ここまで大半が舗装道路を歩いてきたので、最後のこの区間はホッとさせる山道です。分岐を左に折れると墓地の脇に立つポストが見えてきます。園芸ランドとスポーツ広場の脇を抜けると弁天橋で、坂道を上って藤野駅へと帰り着きました。



第7ポスト近くの藤の木

新宿からわずか70分。復活した藤野園芸ランドコースは初心者から経験者まで、オリエンティアの来訪を心待ちにしています。味覚体験とあわせてお出かけください。

(2011年5月4日 踏破)
(大高竜亮)